

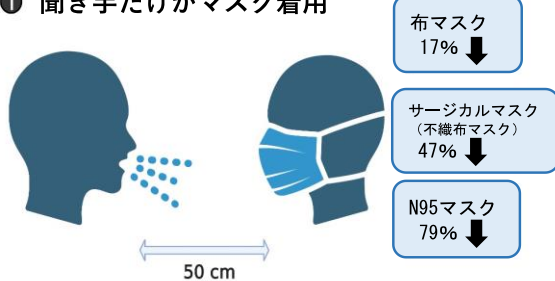
資料 1

％の値が大きいほうが感染防止の効果が高いことを表しています。

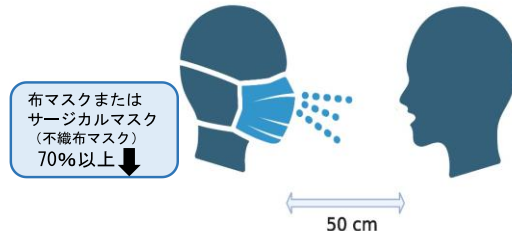
○マスクの効果

東京大学医科学研究所のデータを基に内閣官房作成

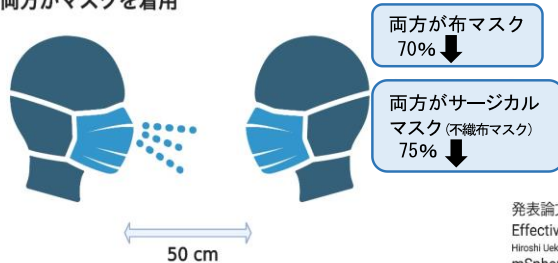
① 聞き手だけがマスク着用



② 話し手だけがマスク着用



③ 両方がマスクを着用



みんながマスクを
することが大切

発表論文
Effectiveness of Face Masks in Preventing Airborne Transmission of SARS-CoV-2
Hiroshi Ueki, Yuri Funusawa, Kiyoko Iwatsuki-Horimoto, Masaki Imai, Hiroki Kabata, Hidekazu Nishimura, Yoshihiro Kawachi
mSphere 2020. DOI: 10.1128/mSphere.00637-20

資料 2 マスクの素材による飛沫防御効果の違い

％の値が小さいほうが、飛沫の飛散量が少なく、感染防止効果が高いことを表しています。

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド	
	吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50% ^{※2}	80%	90% ^{※2}
	吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65 ^{※2}	60-70% ^{※2}	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

(1) 国立大学法人豊橋技術科学大学^{※2} <https://www.tut.ac.jp/docs/201015kisyakaiken.pdf>

(2) 坪倉誠 (理化学研究所 神戸大学/教授) 「室内環境におけるウイルス飛沫感染の予測とその対策」
(2020年8月24日記者勉強会資料) <https://www.r-ccs.riken.jp/fugaku/history/corona/projects/tsubokura/>